

**CASBEE 広島 2016年版**  
**広島駅南口計画(仮称)**

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>4.3</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					0.38		-	<b>4.2</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>4.6</b>	0.15		-	<b>4.6</b>	
1.1 室内騒音レベル		テナント事務室のNC40を目標値としている。		<b>5.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>4.6</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2		5.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能		Dr-45以上		4.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音		床(タイルカーペット)、天井(ロックウール)の二面に吸音材を採用		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>4.3</b>	0.35		-	<b>4.3</b>	
2.1 室温制御				<b>4.2</b>	0.50		-		
1 室温		夏期・冬期とも24℃設定の設備容量を持っている。		3.0	0.38		-		
2 外皮性能		断熱性能の高い建材を採用		5.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		インテリアとペリメーターで約40㎡程度ごとに個別に制御可能		5.0	0.37		-		
2.2 湿度制御		45~55%の間で湿度制御が可能である。		<b>5.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式		高拡散型の特殊性気候を採用		4.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.8</b>	0.25		-	<b>3.8</b>	
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.34		-		
1 昼光率				3.0	0.57		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.43		-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.28		-		
1 昼光制御		外部に出ている柱型で昼光を制御		4.0	1.00		-		
3.3 照度		平均照度500LX以上を確保している		<b>4.0</b>	0.14		-		
3.4 照明制御		照明の個別制御システムを導入している		<b>5.0</b>	0.24		-		
<b>4 空気環境</b>				<b>4.2</b>	0.25		-	<b>4.2</b>	
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				<b>4.6</b>	0.30		-		
1 換気量		35㎡/h人にて外気導入量を決定		5.0	0.34		-		
2 自然換気性能		必要外気量の2倍の外気冷房を計画		4.0	0.31		-		
3 取り入れ外気への配慮		取り入れ外気を排気から6m以上離している		5.0	0.34		-		
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> の監視が常時可能		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		喫煙室に前室を設けており、常時負圧としている。		3.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30		-	<b>4.4</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>4.6</b>	0.40		-	<b>4.6</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.3</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		執務スペース9㎡/人以上を確保		4.0	0.31		-		
2 高度情報通信設備対応		事務室60VA/㎡の電源確保、各テナントに対して光ケーブル敷設		5.0	0.31		-		
3 バリアフリー計画		建築物移動円滑化誘導基準の過半以上を満たす計画		4.0	0.37		-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高さ2.8m、十分な窓の設置		4.0	0.34		-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機等の建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画		5.0	0.31		-		
3 内装計画				5.0	0.34		-		
1.3 維持管理				<b>5.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用、清掃のしやすさに配慮した設計等		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用具室の設置等、維持管理のしやすさに配慮した設計		5.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.9</b>	0.30		-	<b>3.9</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.4</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		時刻歴応答解析による制振構造の採用		3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		制振装置(粘性ダンパー、座屈拘束ブレース)の採用		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.2</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装材の採用		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトおよび厨房ダクトにガルバリウム鋼板を使用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途上位3種にB種以上の配管を使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>5.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		二種類のエネルギーを利用、災害時に重要負荷のみ運転可能		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、受水槽の二重化		5.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電機有り、重要室は上階に配置、電源車対応、2回線受電		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		重要機器は耐震クラスSにて計画		5.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、重要室は上階に配置、ケーブルTV引き込める		5.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.7</b>	0.30	-	-	<b>4.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.1未満	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	仕上げを傷めることなく更新が可能	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	仕上げを傷めることなく更新が可能	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げを傷めることなく更新が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げを傷めることなく更新が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要機器は屋外および、設備バルコニーに設置	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	主要機器については予備スペースを計画	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.32	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BE][BEIm]: 0.93	<b>2.3</b>	0.50	-	<b>2.3</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.5</b>	0.20	-	-	<b>4.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSにてエネルギー評価が可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理体制を組織化、中央管理システムを用いた省エネルギー	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムを採用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.3</b>	0.60	-	-	<b>4.3</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			<b>5.0</b>	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			<b>2.0</b>	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出量の抑制を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車・駐輪スペースの計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量の推計、分別回収の促進する計画	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		5.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	